



国文学研究資料館 2021

National Institute of Japanese Literature



藤原秀能

Contents

| | |
|----------------------------|----|
| はじめに | 3 |
| 概要 | 4 |
| 研究概要 | 6 |
| 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 | 7 |
| データ駆動による課題解決型人文学の創成 | 13 |
| 事業概要 | 14 |
| 国際交流 | 23 |
| 大学院教育 | 25 |
| 公開データベース | 26 |
| 教員一覧 | 27 |
| 参考データ | 29 |
| 人間文化研究機構 | 30 |

はじめに

国文学研究資料館
館長 渡部 泰明

ようこそ、国文学研究資料館へ。

当館は、1972年に創設されました。来年で設立50周年を迎え、半世紀近い間、日本文学および関連領域の研究に寄与してきたこととなります。国文学研究資料館が、準備期間を経て閲覧サービスを開始したのは、1977年の7月でした。個人的な記憶を掘り起こせば、その翌年大学の国文学科に進学した私は、先輩に促されるままに、当時戸越(東京都品川区)の地にあったこの資料館を訪れ、手に入れるのに四苦八苦していた文献や資料を苦もなく閲覧することができ、しかも複写までしてもらえることに驚いたものでした。爾来四十余年、国文学研究資料館の提供する資料の範囲は飛躍的に拡大し、サービスの質も格段に向上しました。各種データベースの充実も目を瞠るものがあります。新型コロナウイルスが私たちの生活を脅かし、調査や資料収集に大きな制限が加わった昨年からの状況の中で、これら各種のデータベースはこれまでにないほどの有効性を発揮いたしました。



こうしたデータベースの中でも、とくに「新日本古典籍総合データベース」は柱となるものです。当館が中心となって2014年度より推進している「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(歴史的典籍NW事業)によって生み出されました。本計画は、国内外の研究機関と連携しつつ30万点の画像データを作成し、それとともに国際共同研究を推進しています。さらに、本事業の後継計画として、文部科学省のロードマップ2020に採択された「データ駆動による課題解決型人文学の創成」も着々と準備が進められています。蓄積した大量のデータの活用を通して、異分野とも協力し合って国際展開することを目指しています。国内・国外を問わぬ研究者どうしのネットワークを形成し共同研究を進めていくのも、私たちの大きな仕事となっています。

去る2020年11月1日には、国内外58機関の参加を得て、「日本古典籍研究国際コンソーシアム」を発足させました(参加機関は2021年3月31日現在で78)。日本古典籍を対象として、オンラインでの活動をベースとしつつ、人材の育成や研究情報の共有、データベースに関する意見交換など、参加機関が協働する場をともに作り上げていくことを目指しています。

もとよりどのような情報であれ、使うのは人間であり、それを咀嚼し、自らの知性の糧とするのも人です。宝の持ち腐れでは意味はありません。そもそも情報の海に溺れないためにはどうしたらよいか、多様な価値観の中でどのように生活したらよいか、それを教えてくれるのが古典です。いまだ知られていない古い資料・文献を発掘し、公開したうえで現代に甦らせ、その価値を共有しうるよう示していく。古典籍に関わる者に課せられたその使命を、私たちは先頭を切って果たしていきたいと願っています。

概要

国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来50年近くにわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿革

- 1966年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター(仮称)」の設置を政府に勧告
- 1970年 9月 学術審議会が「国文学研究資料センター(仮称)」の緊急設置を文部大臣に報告
- 1971年 4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 1972年 5月 国文学研究資料館創設(管理部、文献資料部、研究情報部)
文部省史料館(1951年設置)が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 1977年 6月 開館式挙行
7月 閲覧サービス開始
- 1979年 4月 整理閲覧部設置
- 1987年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 1992年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 2002年11月 創立30周年記念式典挙行
- 2003年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 2004年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる
法人化に伴い、館内組織を改組
- 2008年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 2013年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 2014年 4月 古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
- 2019年 2月 多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」設立
- 2020年11月 日本古典籍研究国際コンソーシアム設立

施設について

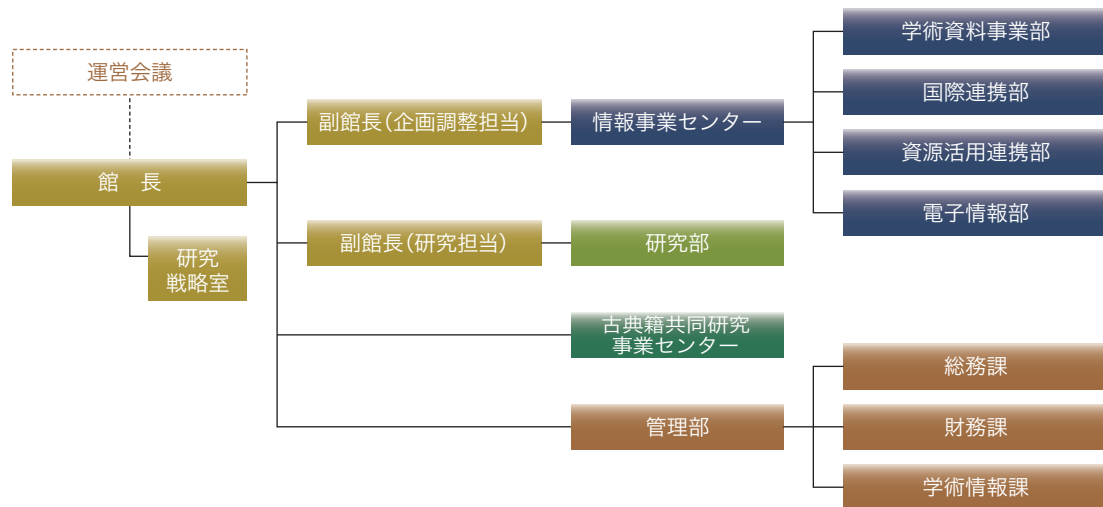
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書すべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。



組織図



運営会議

館外委員

| | |
|-------|------------------------|
| 安達 淳 | 情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長 |
| 飯倉 洋一 | 大阪大学大学院文学研究科教授 |
| 大隅 典子 | 東北大学副学長・附属図書館長 |
| 大谷 節子 | 成城大学大学院文学研究科教授 |
| 金 文京 | 京都大学名誉教授 |
| 小長谷有紀 | 日本学術振興会監事 |
| 佐々木孝浩 | 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長 |
| 鈴木 俊幸 | 中央大学文学部教授 |
| 高岸 輝 | 東京大学大学院人文社会系研究科准教授 |
| 高埜 利彦 | 学習院大学名誉教授 |
| 谷 知子 | フェリス女学院大学文学部教授 |
| 十重田裕一 | 早稲田大学文学学術院教授 |

館内委員

| | |
|-------|-------------|
| 入口 敦志 | 副館長(企画調整担当) |
| 海野 圭介 | 研究部教授(研究主幹) |
| 落合 博志 | 研究部教授(研究主幹) |
| 神作 研一 | 副館長(研究担当) |
| 齋藤真麻理 | 研究部教授 |
| 藤實久美子 | 研究部教授(研究主幹) |
| 山本 和明 | 研究部教授(研究主幹) |
| 渡辺 浩一 | 研究部教授 |

役職員

| | |
|-------------|-------|
| 館長 | 渡部 泰明 |
| 副館長(企画調整担当) | 入口 敦志 |
| 副館長(研究担当) | 神作 研一 |

研究部

| | |
|------|-------|
| 研究主幹 | 海野 圭介 |
| 研究主幹 | 落合 博志 |
| 研究主幹 | 西村慎太郎 |
| 研究主幹 | 藤實久美子 |
| 研究主幹 | 山本 和明 |

情報事業センター

| | |
|---------------|-------|
| 情報事業センター長(併任) | 入口 敦志 |
| 学術資料事業部長(併任) | 海野 圭介 |
| 国際連携部長(併任) | 藤實久美子 |
| 資源活用連携部長(併任) | 西村慎太郎 |
| 電子情報部長(併任) | 落合 博志 |

総合研究大学院大学文化科学研究科

| | |
|-----------|-------|
| 日本文学研究専攻長 | 齋藤真麻理 |
|-----------|-------|

古典籍共同研究事業センター

| | |
|-----------|-------|
| センター長(併任) | 山本 和明 |
| 事務室長(併任) | 河野 浩 |

管理部

| | |
|--------|-------|
| 管理部長 | 山本 慎一 |
| 主幹 | 河野 浩 |
| 総務課長 | 杵山 広樹 |
| 財務課長 | 進藤 光 |
| 学術情報課長 | 早川 知宏 |

研究概要

日本文学及びその関連領域の資料を学術基盤として整備するとともに、人文学の一環としての日本文学研究の一層の推進を目的として、外部の研究者が参加する共同研究委員会を設置して、以下の共同研究を行っています。

基幹研究

研究の基盤となる日本文学及びその関連資料に関する基礎研究を進展させる基幹研究を3課題実施しています。

- **十九世紀地域文化拠点の総合的研究 ―廣瀬家を中心として―** (2019年度～2023年度)
研究代表者：入口 敦志 国文学研究資料館・教授
- **地方協創によるアーカイブズ保全・活用システム構築に関する研究** (2019年度～2021年度)
研究代表者：西村 慎太郎 国文学研究資料館・教授
- **日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究** (2015年度～2023年度)
研究代表者：相田 満 国文学研究資料館・准教授

特定研究

日本文学研究を推進させる課題に取り組む特定研究を4課題実施しています。すべての課題は公募によるものです。

公募(一般)

当館の所蔵資料(原本資料・マイクロフィルム資料等)を活用した日本文学及び関連諸分野を含む創造的で幅広い研究。若手研究者の参加を奨励しています。

- **国文学研究資料館所蔵マイクロ・デジタル資料を利用した古活字版総合目録作成の試み** (2021年度～2023年度)
研究代表者：高木 浩明 近畿大学・非常勤講師(国文学研究資料館・客員研究員)
- **『狭衣物語』を中心とする中古物語鎌倉期本文の研究と資料整備** (2021年度～2023年度)
研究代表者：松本 大 関西大学・准教授

公募(課題)

包括的なテーマの下に先進的な個別研究を行う研究分担者を募集し、それらの交流の中から新たな研究の方向を創出することを目的とした研究。

- **上野学園大学日本音楽史研究所寄託資料の基礎的研究** (2020年度～2022年度)
研究代表者：神田 邦彦 花園大学・専任講師
- **国文学研究資料館所蔵木藤才蔵コレクションの基礎的研究** (2021年度)

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

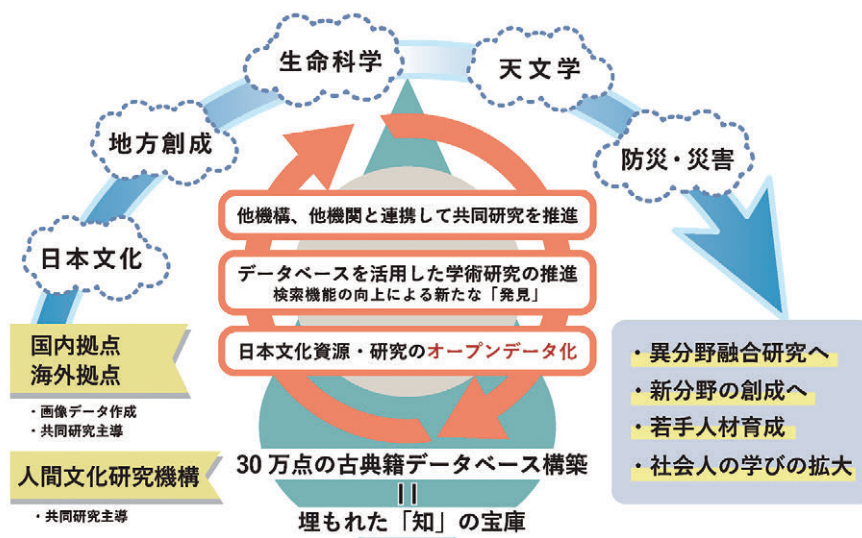
(略称：歴史的典籍NW事業／NIJL-NW project)

本事業は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の全冊画像化を行い、当館が構築してきた古典籍の書誌データベースと統合して、自在に画像を検索できるデータベース「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作り、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。

こうした古典籍の画像化は、文化財危機(原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等)への対応ともなり、文化財の後世への継承にも貢献することになります。

本事業における共同研究では、データベースを活用し、人文学分野にとどまらず、自然科学分野までを包括する文理融合による国際的な規模での共同研究を推進してまいります。

NIJL-NWプロジェクト概要図



実施計画

2014年度から2023年度までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら古典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の拡張を進めていきます。

古典籍画像は、分野別に収集し、順次公開する予定です。

①日本語の歴史的典籍DBの構築

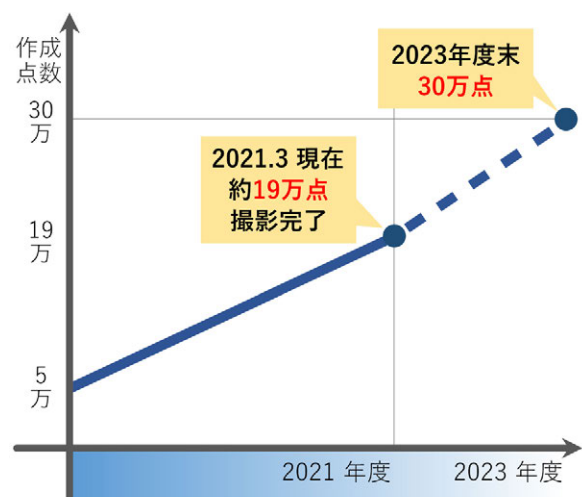
- ◆30万点の画像データの作成
- ◆新日本古典籍総合データベースの運用
- ◆検索機能の向上化・多言語化対応

②国際共同研究ネットワークの構築

- ◆異分野融合を踏まえたネットワークの拡充

③国際共同研究の推進

- ◆異分野融合研究の醸成
- ◆「総合書物学」の創出
- ◆文献観光資源学研究的の推進

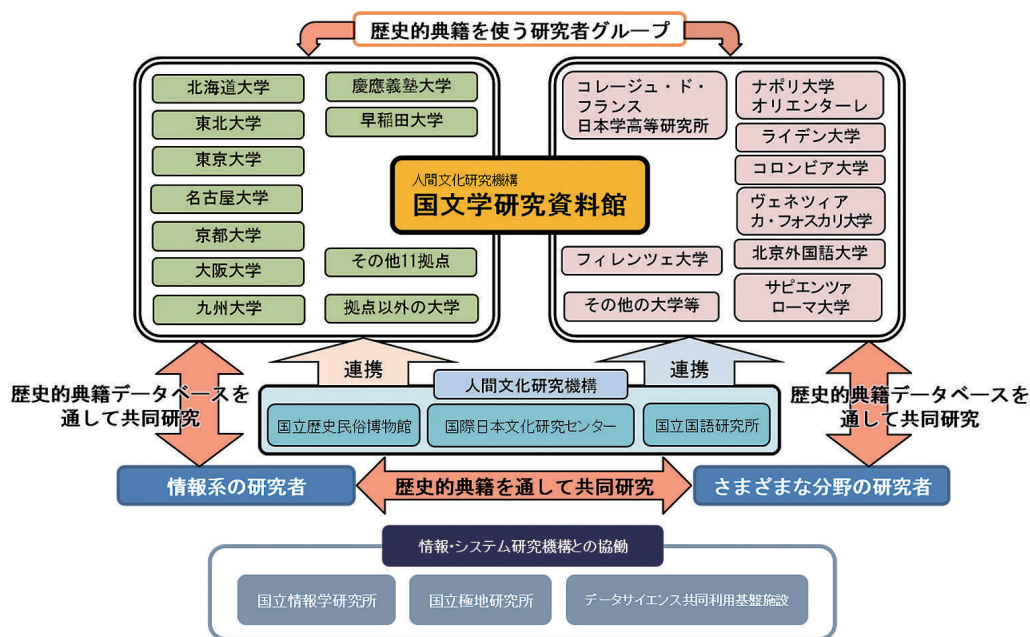


30万点の画像データ作成計画

実施体制

人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国内外の研究機関、ならびに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会、資料活用連絡協議会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見を踏まえて、本事業を推進しています。また、センター運営委員会の下にNW事業実施委員会を置くことで、当館のすべての教員が本事業の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための体制となっています。



国際共同研究ネットワークのイメージ

2020年度の画像情報作成状況(総点数 約3万8千点)

● 拠点大学：デジタル撮影

北海道大学、東北大学、筑波大学、お茶の水女子大学、慶應義塾大学、東京大学、名古屋大学、大谷大学、京都大学、同志社大学、大阪大学、関西大学、神戸大学、広島大学、九州大学

● 拠点大学：デジタル撮影(内製)

東北大学、筑波大学、名古屋大学、京都大学、九州大学

● 専門性の高い分野別収集：デジタル撮影

弘前市立弘前図書館、茨城大学、実践女子大学、成城大学民俗学研究所、専修大学、一橋大学、東京海洋大学、東京学芸大学、日本体育大学、横浜国立大学、武庫川女子大学、京都府立京都学・歴彩館、奈良県立図書情報館、清光西厳寺

● 専門性の高い分野別収集：デジタル撮影(内製)

宮城教育大学、研医会図書館、専修大学、東京海洋大学、一橋大学、法政大学、清光山西厳寺、武庫川女子大学、愛媛大学、中津市歴史博物館、国文学研究資料館

● マイクロフィルムからの画像作成

北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、大阪大学、関西大学、国文学研究資料館

● 既存画像の提供

秋田大学、茨城大学、千葉大学、お茶の水女子大学、国立公文書館、国立国会図書館、東京学芸大学、慶應義塾大学 斯道文庫、豊田市中央図書館、皇學館大学、京都大学、京都府立京都学・歴彩館、大阪大学、鳥取県教育庁文化財課・古代文化センター、琉球大学、フリーア美術館

新日本古典籍総合データベース

歴史的典籍NW事業の推進基盤となる「新日本古典籍総合データベース (Database of Pre-Modern Japanese Works)」は2017年より公開されています。

文学分野のみならず医学・理学分野等あらゆる分野の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する研究基盤として、国内外の大学等と連携のもと、今後は古典籍30万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。

公開サイト

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>



新日本古典籍総合データベースの概要と特長

唯一の日本古典籍ポータルサイトとして、当館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像が利用できます。

Point1 探しやすい

タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！



<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

Point2 引用しやすい

電子データに付与される国際的識別子、DOI(デジタルオブジェクト識別子)の採用により、永続的なアクセスを保証。
論文などに引用したいときに便利！

DOI

<https://doi.org/10.20730/200021913>

変換

新日本古典籍
総合データベース

<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913>

データベースの URL が代わっても DOI は変わらず、リンク切れが発生しない

<https://www.doi.org/>

Point3 活用しやすい

デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF (International Image Interoperability Framework : トリプルアイエフ)を採用。
異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！



▲画像ビューア

<http://iiif.io/>



利用にあたっては、パンフレットをご参照下さい。

「新日本古典籍総合データベース パンフレット(クイックガイド付)」

<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>
からダウンロードできます。

こちらから
パンフレットPDFを
ご覧いただけます



新日本古典籍総合データベースで公開中の画像例



奈良絵本・大職冠

[ならえほん・たいしょかん・成立年未詳]

室町時代後半～江戸時代前期につくられた絵入りの「奈良絵本」のひとつ。金泥、銀泥、朱などが使われた極彩色で、藤原鎌足の物語が描かれている。

●DOI : <https://doi.org/10.20730/200016463>

オープンデータの取り組み

当館では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、当館所蔵資料のオープンデータ化を進めています。その取り組みの一つとして、情報・システム研究機構の国立情報学研究所及びデータサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター（以下「CODH」）との協働により、CODHのサイトから以下の3種類のデータセットを公開しています。

いずれのデータも「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス(CC BY-SA)」の下に提供していますので、この条件に同意される方であれば、どなたでもご利用いただけます。

当館オープンデータのサイト https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html

●日本古典籍データセット

【点数】 3,126点 ※2020年3月現在

重要文化財や貴重書を含む国文学分野のほか、当館で収集した医学や理学、産業など多分野の古典籍、味の素食の文化センターが所蔵する料理本等で当館が撮影した古典籍を含んでいます。

【構成】 ①古典籍画像データ ②書誌データ ③本文テキストデータ ④タグデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>

●日本古典籍くずし字データセット(旧名称：日本古典籍字形データセット)

【データ数】 4,645文字種 684,165字 ※2019年1月現在

国立国語研究所所蔵資料と味の素食の文化センター所蔵資料を含む28点の資料から字形データを採取しています。

【構成】 ①原本補正画像データ ②文字座標データ ③字形画像データ ④作業報告文書

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/char-shape/>

●江戸料理レシピデータセット

【点数】 107種類

43種類は現代語訳データ有り、更にそのうち34種類は現代レシピデータがあります。

【構成】 ①原本画像データ ②翻刻テキストデータ ③現代語訳データ ④現代レシピデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/>

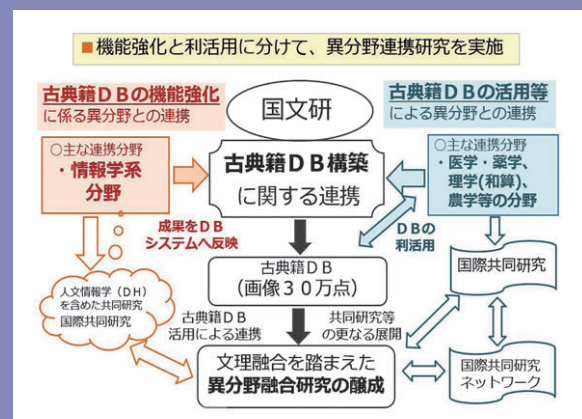
(CODHでの公開のほか、「クックパッド江戸ご飯」でも公開中です)

共同研究

本事業においては、国内外の多様な分野の研究者が参加した研究ネットワークを作り上げることによって、膨大に集積された日本古典籍に新たな研究の光を当て、それらを知的資源として活用していくことを目標としています。この目標に向け、すべての分野を網羅する30万点の日本古典籍の全冊画像データベースの構築に国内の諸大学・機関と共同して取り組むとともに、先導的な共同研究を実施し、広く多様な分野の研究者に参画を促しています。

2014年の開始以降、海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から活用する「国際共同研究」、さまざまな分野の日本古典籍に散在する情報の活用を目指し、理系研究者等とともに取り組む「異分野融合共同研究」、人間文化研究機構の国立歴史民族博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センターと連携して実施する「機構内連携共同研究」、検索機能の高度化等を推進するための「研究開発系共同研究」などさまざまな形での共同研究を実施しています。

これらの共同研究では、若手や女性研究者、さらには国外研究者の参画も配慮し、これまでに40を数える分野の研究者と協働するほか、国際的評価を受けた共同研究も輩出しています。



《2021年度実施共同研究》

国際共同研究

- 画像に紐づくメタデータ生成に関する協同研究(2021年度～2023年度)
Unit A コンテンツのメタデータ生成(教材化を含む)に関する研究
Unit B デジタルに基づく研究方法の形成と情報基盤の国際構築

異分野融合共同研究

- 星石4Dプロジェクト(隕石関係)(2020年度～2023年度)
相手先機関：国立極地研究所等
- 歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化(2020年度～2023年度)
相手先機関：茨城大学地球・地域環境共創機構等
- 料理・調味料の復元と活用に関する研究(2016年度～2021年度)
相手先機関：立命館大学
- 古典籍画像に基づくICT活用教育プログラムの開発(2020年度～2023年度)
相手先機関：信州大学等
- 古典籍画像に基づくICT活用教育ツールの開発(2020年度～2023年度)
相手先機関：豊田工業高等専門学校
- デジタル人文学に関する教育・人材育成プログラムの基盤整備(2021年度～2023年度)
相手先機関：人文情報学研究所等
- 典籍に基づく日本文化の再発見(食・装い)(2021年度～2023年度)
相手先機関：味の素食の文化センター等

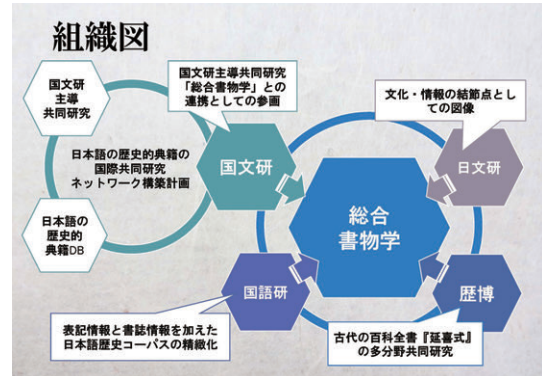
その他、発酵学、感染症、海洋資源等の新規分野との共同研究を展開する予定。

機構内連携共同研究

異分野融合による「総合書物学」の構築

統括代表者：藤實 久美子 国文学研究資料館・教授
各研究ユニット

- 古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究
研究代表者：小倉 慈司 国立歴史民俗博物館・准教授
- 表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化
研究代表者：高田 智和 国立国語研究所・准教授
- 文化・情報の結節点としての図像
研究代表者：山田 奨治 国際日本文化研究センター・教授



研究開発系共同研究

検索機能の高度化等を推進するため、研究開発系共同研究を実施しています。

- 典籍の全文テキスト化に関する共同研究(凸版印刷株式会社)
- ワードスポッティング等によるテキスト化を経ないキーワード抽出(公立はこだて未来大学)
- AIによるテキスト化に関わる総合的研究(国立情報学研究所、人文学オープンデータ共同利用センター)
- 検索機能の向上化と古典籍の研究活用研究(国立情報学研究所、人文学オープンデータ共同利用センター)
- TEI (Text Encoding Initiative)に関する発展的研究(人文情報学研究所、北海学園大学、人文情報学研究所等)
- 多元光情報等の高次元処理等によるマテリアルとしての典籍情報解析に関する応用研究
(奈良先端科学技術大学院大学、実践女子大学文芸資料研究所)
- 画像作成及びカタロギングにおけるアルゴリズム改良に関する共同研究(大英図書館、白百合女子大学等)
- デジタル画質改良に関する研究(カラー化・画質改善等)(東京大学大学院情報学環等)
- メタデータの構造化(RDF化)に関する調査研究
- 次期IIIFビューワに関する研究(東京大学史料編纂所、人文情報学研究所等)
- 書誌作成補助のためのツール開発(慶應義塾大学ス道文庫・データサイエンス共同利用基盤施設等)
- 字形データ活用による研究ツールに関する研究(奈良文化財研究所、国立国語研究所等)
- AI活用による現代語訳化に関する準備研究(国立国語研究所等)

研究成果の発信及び広報活動状況

共同研究の成果や本事業の活動状況について、広く社会の理解を得るため、プレスリリースや、国際研究集会のライブ配信、市民参加型の取り組みを中心に活動を行っています。

2020年度プレスリリース

当館及び共同研究先の機関と連携した研究成果等のプレスリリースを積極的に展開しています。

- 2020年4月6日(月) 江戸時代以前の書籍情報を集めた『国書総目録』デジタル公開へ
- 2020年6月17日(水) 掛川の俳人・柿園嵐牛が伝えた俳諧資料 デジタル公開へ(嵐牛俳諧資料館)
- 2020年7月9日(木) 国文学研究資料館とポーラ文化研究所が協力・連携し、化粧文化に関する資料をWEB公開へ(ポーラ文化研究所)
- 2020年9月24日(木) 「古典の百科、江戸学の宝庫」東北大学狩野文庫をデジタル公開へ(東北大学)
- 2020年11月24日(火) 国文学研究資料館と斯道文庫データベース構築に関する覚書を締結(慶應義塾大学)
- 2021年3月9日(火) 仙台郷土史と伊達家稀観本を伝える貴重書古典籍デジタル公開へ(仙台市民図書館)



11月24日リリース

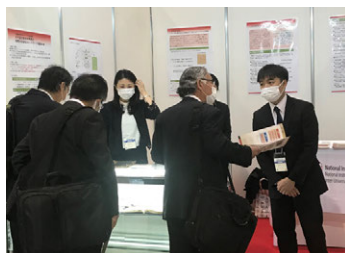
当館主催のシンポジウム等

- 第6回「日本語の歴史的典籍国際研究集会」を開催しました。(2020年11月7日(土))
初となるオンラインで開催し、昨年に引き続きライブ配信を実施しました。開催後、センター HP 特設ページ内でアーカイブ動画を公開しました。
<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sympo2020.html>



その他の活動状況

- オンラインで開催された「日本語学会2020年度秋季大会」において、「国文学研究資料館の情報資源の日本語学研究への活用」と題したワークショップを行いました。(2020年10月24日(土)～25日(日))
- 大阪で開催された「第5回関西教育ICT展」において、「新日本古典籍総合データベース」のデモなどのブースを出展しました。また、「典故知新一残された先人の知を学びに」と題し、講演を行いました。(2020年10月29日(木)～30日(金))
- オンラインで開催された「第22回図書館総合展」において、新日本古典籍総合データベースおよび関連するコンテンツの紹介、デジタル撮影についての紹介を行いました。(2020年11月1日(日)～30日(月))
- 東北大学でオンライン開催された「東北大学狩野文庫デジタルアーカイブシンポジウム『江戸に学び、江戸に遊ぶ』」において、歴史的典籍NW事業についてパネルディスカッションを行いました。(2020年12月20日(日))



第5回関西教育ICT展

- 実践女子大学で開催されたシンポジウム「紙のレンズから見た古典籍」において、「国文学研究資料館が目指す未来」についてスピーチを行いました。(2021年3月13日(土)～14日(日))
- 関西大学で開催される国際シンポジウム「デジタルヒューマニティーズ推進のための環境構築とその課題」において、当館山本センター長が『「データ駆動による課題解決型人文の創成」事業に向けて』と題し、講演を行いました。(2021年2月27日(土))
- 国際共同研究の成果を発信する英文オンライン・ジャーナル「Studies in Japanese Literature and Culture」Volume 4を2021年3月に刊行しました。
URL:<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sjlc.html>
- 本事業を紹介するニュースレター「ふみ」を2回(14号、15号)発行しました。ホームページからもPDF版の配信をしています。
URL:
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter_fumi_new.html



データ駆動による課題解決型人文学の創成

現在進行中の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の後継として、人文学の分野に閉じられていた歴史的典籍に記録された情報やそのマテリアル情報等を広く自然科学、社会科学の研究者にも開き、歴史的典籍を軸とするデータ駆動型の人文学の研究環境を整備・運営してゆく計画を立案しています。

範囲を明治時代にまで拡張するとともに、歴史的典籍データを機械可読型に整備し、自然科学・社会科学分野といった他分野の研究者との共同研究の成果をデータインフラストラクチャーに蓄積してゆく循環型の仕組みを構築し、人文学の研究者が他分野と協働して自律的に現代社会にあるさまざまな課題解決に十全に寄与する課題解決型の人文学を創成することを目的としています。本計画は「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定ーロードマップ2020ー」（文部科学省、2020年9月24日）に策定され、今後その実現を目指します。

典籍に基づく課題解決型人文学で持続可能な社会実現へ



データの駆動性向上

日本語の歴史的典籍の30万点に及ぶ画像データを基盤として、データの機械可読化と構造化を進め、データの駆動性の向上を目指します。研究の過程で蓄積された、AI技術を用いた機械可読化技術やデータ分析の手法と、典籍防災学、文献観光資源学、典籍人類学などをモデルケースとして、データサイエンスとしてのデータ駆動型の課題解決型人文学の手法と領域を構築します。

現代社会の課題解決

現代の科学が結束して対応する、持続可能で多様性と包摂性のある社会の構築という課題に、先人の英知と記憶・経験を対象に研究を進めてきた人文学分野が参画し、他分野との協働による課題解決型研究のコンセプトを提案し、現代社会の課題解決へと向かい得るデータ駆動型、課題解決型の人文学への展開を促進します。こうした取り組みは、人文学、自然科学、社会科学といった領域の垣根を越えた学問の融合へとつながってゆきます。

若手研究者の育成

データ駆動による課題解決型人文学研究を通して、人文学と自然科学、とりわけ情報学分野の双方に通じ、その手法に精通した若手研究者の育成を行います。あわせてそれぞれの研究領域と実体社会とを結ぶ高度な専門知識を持ったインプリタ、コミュニケーター等を育成し、研究成果の社会還元と普及に努めます。

事業概要

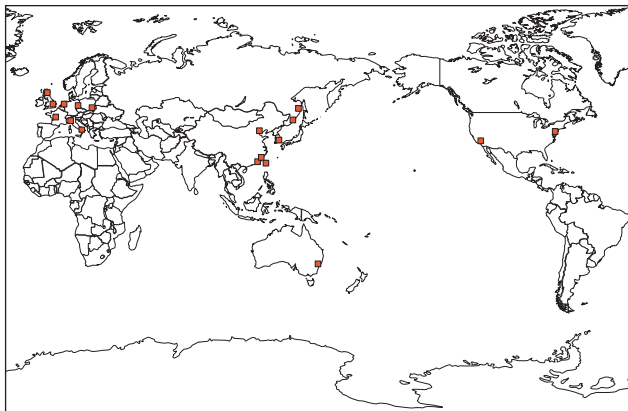
事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらをさまざまな方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

1 調査収集

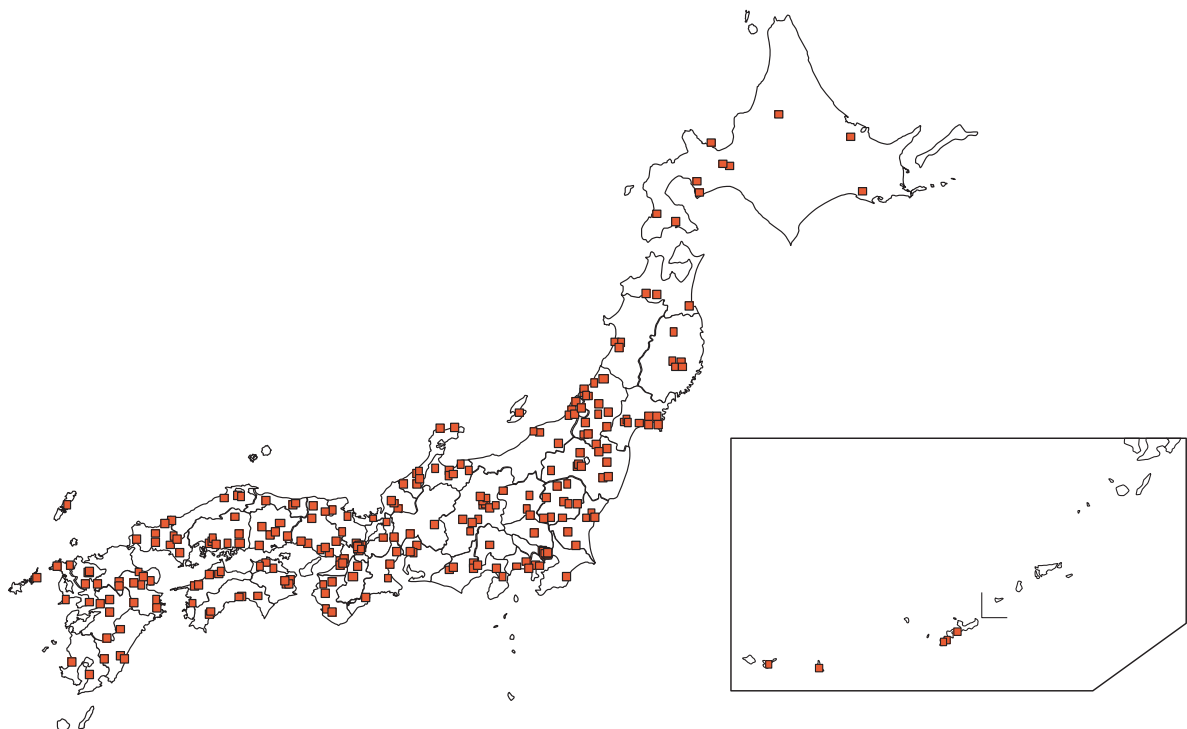
全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料(写本・版本等)の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料を、マイクロフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

| | | | |
|----|----|---------|----------|
| 調査 | 国内 | 1,035箇所 | 423,532点 |
| | 海外 | 67箇所 | 16,367点 |
| | 計 | 1,102箇所 | 439,899点 |
| 収集 | 国内 | 390箇所 | 214,489点 |
| | 海外 | 13箇所 | 1,518点 |
| | 計 | 402箇所 | 216,007点 |



■ 2020年度調査箇所一覧

| |
|--------------------------|
| 関東地区 |
| 宮内庁書陵部 |
| 中国・四国地区 |
| 鳥取県立博物館 (久松閣文庫・尚徳館文庫) |
| 手銭記念館 |
| 正宗文庫 |
| 光市文化センター |
| 大洲市立図書館 |
| 九州・沖縄地区 |
| 祐徳稲荷神社(中川文庫等) |
| 諏訪神社(諏訪文庫) |
| 大分県立先哲史料館 |
| 近代 |
| アドミュージアム東京 |
| 山田俊治 |

■ 2020年度収集箇所一覧

| |
|-----------------|
| 北海道・東北地区 |
| 宮城県図書館 |
| 関東地区 |
| 宮内庁書陵部 |
| 中部地区 |
| 富山市立図書館(山田孝雄文庫) |
| 浜松市立賀茂真淵記念館 |
| 近畿地区 |
| 瑞光寺 |
| 中国・四国地区 |
| 鳥取県立図書館 |
| 手銭記念館 |
| 正宗文庫 |
| 光市文化センター |
| 総本山善通寺 |
| 愛媛大学図書館(鈴鹿文庫) |
| 安田女子大学図書館(稲賀文庫) |
| 大洲市立図書館 |
| 高知県立高知城歴史博物館 |

| |
|---------------|
| 九州・沖縄地区 |
| 祐徳稲荷神社(中川文庫等) |
| 諏訪神社(諏訪文庫) |
| 肥前島原松平文庫 |
| 松浦史料博物館 |
| 近代 |
| 山田俊治 |
| アーカイブズ |
| 江川文庫 |
| 真田宝物館(真田家文書) |

※所蔵者名敬称略

2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。



図 書 館

利用案内

| | | | |
|-------|--------------|--|----------------------------------|
| 利用時間 | 開館時間 | 平日 | 9:30～18:00(史料・貴重書の閲覧は9:30～17:30) |
| | | 土曜 | 9:30～17:00(史料・貴重書の閲覧は9:30～16:30) |
| | 書庫資料 閲覧受付 | 平日 | 9:30～17:00 |
| | | 土曜 | 9:30～16:00 |
| | 複写受付 | | 9:30～16:00 |
| 休 館 日 | | <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日、祝日・振替休日 ・第4水曜日 ・夏季一斉休業日(8月12日から8月16日) ・年末年始(12月27日から1月5日) ・蔵書点検期間(2月21日から2月26日) ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館Webページで確認してください。 | |
| サービス | 閱 覧 | マイクロ資料、和古書(写本・版本)、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物(土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要) | |
| | 複 写 | 電子複写(リーダープリンターによる複写も含む)・ポジフィルム(ただし史料は除く) | |
| | 撮 影 | 史料等、電子複写できない資料 | |
| | 貸 出 | 紙焼き写真本の一夜貸しサービス(一部を除く) | |
| | 展 示 貸 出 | 図書館、文書館、博物館等への貸出 | |
| | 参 考 調 査 | 所蔵調査・参考質問の受付、回答 | |
| | 相 互 協 力 | 図書館間の相互協力(ILL)による文献複写、資料貸出 | |
| 問合せ | 電 話 | 利用について | 050-5533-2926 情報サービス係 |
| | | 相互利用(ILL) | 050-5533-2926 // |
| | | 歴史資料について | 050-5533-2930 // |
| | | 資料の掲載について | 050-5533-2930 // |
| | F A X | 042-526-8607 | |
| | E-mail | etsuran@nijl.ac.jp | |

所蔵資料

| 資料種別 | | 点数等 | 冊数等 |
|-----------|-----------|---------|-----------|
| 収集マイクロ資料 | マイクロフィルム | 日本文学 | 195,097点 |
| | | 歴史 | 202件 |
| | マイクロフィッシュ | 日本文学 | 16,667点 |
| | 紙焼写真本 | 日本文学 | — |
| 歴史 | | — | |
| 図書 | 写本・版本 | 19,220点 | 62,276冊 |
| | 活字本・影印本等 | — | 196,422冊 |
| | 逐次刊行物 | 9,387誌 | — |
| 所蔵史料 | | 502件 | 約520,000点 |
| 寄託資料・寄託史料 | 日本文学 | 13件 | 9,540冊 |
| | 歴史 | 17件 | 6,847点 |

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

春日懐紙(重要文化財)、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか208点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション(初雁文庫)、作家中村真一郎旧蔵の江戸明治の漢詩文集のコレクション(日本漢詩文集コレクション)、『徒然草』ほかのコレクション(高乗勲文庫)、『新古今和歌集』を中心としたコレクション(懐風弄月文庫)、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類(田安德川家資料(田藩文庫ほか))、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物ならびに文書・記録類(鵜飼文庫)、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類(山鹿文庫)、『伊勢物語』とその関連書のコレクション(鉄心斎文庫)ほか24件

【寄託資料】

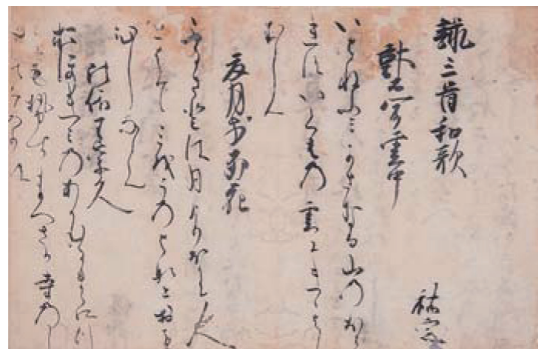
金子元臣旧蔵書6点、坂田穩好氏古筆切コレクション145点、増田コレクション6,690枚50箱ほか13件

歴史関係資料

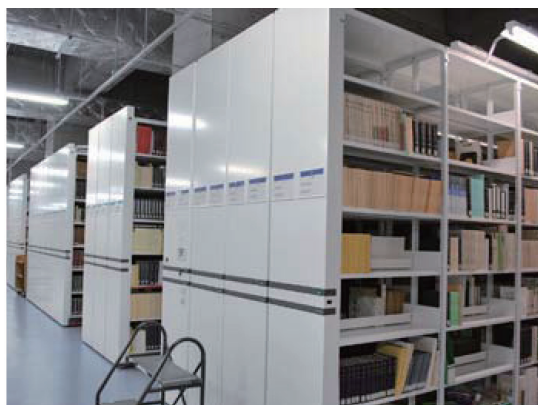
所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。



春日懐紙(当館所蔵)



書庫

3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、さまざまなイベントを開催しています。

展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

2021年度展示予定

特別展示

「ないじえる芸術共創ラボ展

時の束を抜くー古典籍からうまれるアートと翻訳ー

2021年2月15日から5月31日まで開催

ないじえる芸術共創ラボ(p20参照)のこれまでの活動の成果(各アーティスト・イン・レジデンス(AIR)、トランスレーター・イン・レジデンス(TIR)による作品のみならず、ワークショップにおける成果や、研究者の知見を含む)を一堂に会した展覧会です。

本展覧会では、古典籍から新しい文化的価値を生み出す、ないじえる芸術共創ラボの活動成果を視覚化するとともに、古典籍とは、誰もがそれぞれの方法でアクセスすることができ、さまざまな営為と繋げてゆくことのできる文化資源であることを示すことを目的としています。



展示室

特別展示「復興を支える地域の文化ー3・11から10年」(仮)

2021年8月上旬頃から2021年9月下旬まで開催予定

震災・原子力災害から地域がどのように復興を目指しているか、地域文化がどのような役割を果たしているか、国立民族学博物館で開催された特別展のエッセンスを展示します。

特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しています。

講演会等

(1) アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、7月26日(月)～8月6日(金)、8月17日(火)～9月10日(金)の間の計6週間、短期コースは11月8日(月)～11月13日(土)に開催を予定しています。



2020年度 アーカイブズ・カレッジ短期コース

(2) 日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2021年度は7月6日(火)～8日(木)の3日間、オンライン(Zoom)にて開催する予定です。



2019年度 日本古典籍講習会

主要出版物一覧

当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文研ニュース(年2回刊) ※WEB版のみ

研究成果

- 国文学研究資料館紀要 ※WEB版のみ
文学研究篇
アーカイブズ研究篇
- 共同研究成果報告書

事業関係

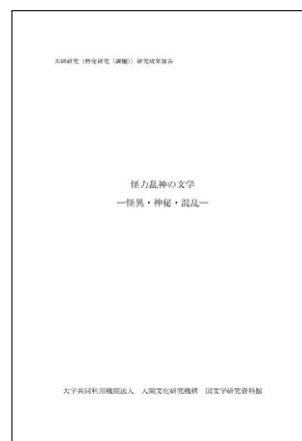
- 調査研究報告 ※WEB版のみ
- 史料目録 ※WEB版のみ
- 展示図録



国文研ニュース



紀要 文学研究篇



共同研究(特定研究(課題))研究成果報告
怪力乱神の文学
一怪異・神秘・混乱一

ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ

当館では2017年10月より、中長期的な事業として「ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」（「ないじえる」とは当館の英語表記NIJLから）を実施しています。当事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍という文化的資源を、現代社会のニーズに適合した形で積極的に活用することを目的としており、さまざまな分野のクリエイターを招聘して創作活動を行ってもらうレジデンス・プログラムを実施し、新たな芸術的価値を共創しています。

具体的には、研究者とクリエイターとのワークショップを行い、創作活動を推進するとともに、地方自治体・団体や、民間企業との連携も強化し、成果発信を兼ねたイベント等を開催しています。また、WEBメディア等を通じた事業内容の配信等を行い、日本文化の魅力や、古典籍の新たな活用の在り方を、国際的に提示・発信しています。

● ラボを動かす部門は3つあります。

■ アーティスト・イン・レジデンス(AIR)

「アーティスト・イン・レジデンス」として、著名な小説家で芥川賞・紫綬褒章受賞者の川上弘美氏、劇作家・演出家・俳優の長塚圭史氏、世界的アニメーション作家で同じく紫綬褒章受賞者の山村浩二氏、また画家の松平莉奈氏、現代芸術家の梁亜旋氏の4名が、これまで参加し、活発で多彩な創作活動を行って参りました。今年度は、新体制になり、新たに2名の芸術家を招へいます。まずは、研究者とのワークショップを行い、当館所蔵の豊富な古典籍という文化資源に触れていただき、研究者との触発を通して、その本質に肉薄することで、既存の文学の枠組みを超えた創作活動を推進します。

■ トランスレーター・イン・レジデンス(TIR)

「トランスレーター・イン・レジデンス」として、これまでピーター マクミラン氏を招へい、研究者たちとの協業やワークショップを通じて、当館所蔵の『扇の草紙』2点に含まれる和歌66首の英訳を完成させました。英語圏のみならず、他言語圏の読者を意識した翻訳、翻訳された作品の海外発信等を通じ、日本文化の国際的発信を行っています。

■ 古典インタプリタ

日本古典文学の専門的知識を有し、渉外能力等にも長けた人材として「古典インタプリタ」を配置し、AIR・TIRと研究者との共創の場をサポートします。イベント・講演会やメディアを通じて、当事業の様子を広く社会に伝え、また、大学や研究機関のみならず、民間企業や地方自治体等とも連携して、古典籍の幅広い活用を促進し、その様子は事業WEBサイトや各種SNS等より、随時発信しています。

● 2020年度の主な活動(「令和2年度日本博イノベーション型プロジェクト」として実施)

(1) 特別展示

「ないじえる芸術共創ラボ展

時の束を^{ひら}披く ―古典籍からうまれるアートと翻訳―

事業開始以来の活動のひとつの集大成として、特別展示を開催いたしました(2021年2月15日～5月31日)。第一線で活躍するクリエイターと、研究者の共創の成果である多彩な作品と、その発想の源泉となった古典籍を展示するとともに、学術的資源の古典籍が、新たな文化芸術的価値の創造の源泉となり得ることを示しました。



特別展示会場の様子

【特別展示参加クリエイター概要】

- 川上 弘美(小説家)：「伊勢物語」を題材に、恋愛小説『三度目の恋』を執筆
- 長塚 圭史(作家・演出家・俳優)：山東京伝とその黄表紙を題材に、戯曲「KYODEN'S WOMAN ～アナクロニズムの夢～」を執筆、朗読劇を上演
- 松平 莉奈(画家)：絵手本等の模写を通じて体得した、自らの内面にある「古典」を絵画で表現
- 山村 浩二(アニメーション作家)：^{くわがたけいさい} 鍛形恵斎『略画式シリーズ』と上田秋成作『雨月物語』^{むおう りぎょ}「夢応の鯉魚」をモチーフとした、短編アニメーション「ゆめみのえ」を制作
- 梁 垂旋(現代芸術家)：絵巻を題材にしたインスタレーション作品や絵画を制作
- ピーター・J・マクミラン(翻訳家)：「扇の草紙」和歌の英訳で得た気づきをもとに、日本の美を伝える
- 山田 卓司(情景作家)：東海道五十三次を鉢植に見立てた江戸時代の絵本をジオラマで表現
- WOW(ビジュアルデザインスタジオ)：各クリエイターの世界観と古典籍の知の力を緩やかにつなぐ映像作品を制作

(2) 対談

新型コロナ感染拡大状況に配慮し、対談はライブ配信または収録にて行い、後に編集映像を配信しました。

- 川上弘美氏×ロバート キャンベル
- 山村浩二氏×ロバート キャンベル
- デジタル発 和書の旅「未知への旅 梁垂旋×松平莉奈×木越俊介」
- デジタル発 和書の旅「遊び心と絵心と 一日本の美意識を翻訳する一」



川上弘美氏 × ロバート キャンベル
2020年10月31日



山村浩二氏 × ロバート キャンベル
2021年2月6日



未知への旅
2020年12月18日



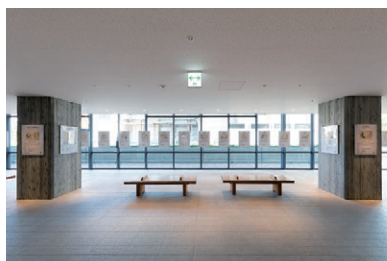
遊び心と絵心と
2021年2月13日

(3) 上演、作品展等

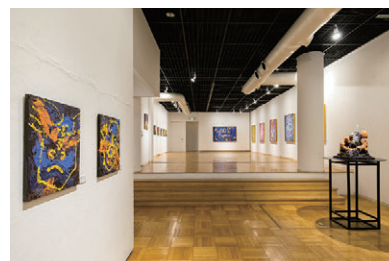
- 長塚圭史新作戯曲「KYODEN'S WOMAN ～アナクロニズムの夢～」朗読劇上演
- 松平莉奈展「うつしのならひ ー絵描きとデジタルアーカイブー」
会期中にデジタルアーカイブされた古典籍を模写するワークショップ「どの先生に弟子入りする? ～デジタル模写派誕生～」を実施しました(ライブ配信)。
- 梁垂旋展「Inheriting and recreating the classics」
古典籍のデジタルデータをモチーフにして仮面を作るワークショップ「古典籍の“面白い顔”が仮面になる!」を実施しました(収録)。



KYODEN'S WOMAN
2020年8月30日
於当館閲覧室



松平莉奈展
2020年11月16日～22日
於ロームシアター京都



梁垂旋展
2021年1月18日～23日
於文房堂ギャラリー

多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体が構成するプラットフォームとして、多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を設立しました。

「ぷらっとこくぶんけん」の事業として、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。



2020年度事業

- こくぶんけんカフェ
- 一冊対談集 クリエーターと語るこの国の古典と現代
 - 第4回(宮本亜門×ロバート キャンベル)
 - 第5回(川上弘美×ロバート キャンベル)
 - 第6回(森永邦彦×ロバート キャンベル)
 - 第7回(山村浩二×ロバート キャンベル)

こくぶんけんカフェ
病と立ち向かう江戸時代の人々
—文学・歴史から学ぶこと—
【オンライン講座(Zoomを使用します。)]

こくぶんけんカフェとは?
当館の研究者が会話をしながら講座を行い、研究の概要に触れていただくイベントです。

こくぶんけんカフェ

会員の募集

「ぷらっとこくぶんけん」では、会員を募集しています。会員登録していただいた団体と連携し、

- 参加団体間でネットワークを構築し、情報の集約・共有活用
 - プラットフォームを活かした当館の広報・情報発信
 - 当館への講演会等の企画提案
 - イベントへの優先的なご案内
- など、さまざまな活動を行って参ります。

【お問い合わせ】 国文学研究資料館 ぷらっとこくぶんけん担当
E-mail : platform@nijl.ac.jp

国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野と手法を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに、当館では国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、国内外における研究集会やシンポジウム、日本古典籍を研究資源としたセミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

また複数の機関に限られた資源を共有し、相互の長所・短所を補完できる場として、日本古典籍研究に特化した「日本古典籍研究国際コンソーシアム(Global Consortium for Japanese Textual Scholarship)」を、2020年11月1日付けで国内外の参加機関と共に任意団体として設立しました。事務局は当館が担当。参加機関数は、2021年3月末現在で78機関(国内39機関、国外39機関)です。<https://kotenseki.org/>

1 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス共和国)
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科(イタリア共和国)
- ナポリ大学「オリエンターレ」(イタリア共和国)
- サピエンツァ ローマ大学イタリア東洋研究学科(イタリア共和国)
- フィレンツェ大学語学・文学・国際文化学部(イタリア共和国)
- 北京外国語大学北京日本学研究センター(中華人民共和国)
- ライデン大学人文学部(オランダ王国)
- ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科(カナダ)
- コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ合衆国)
- 高麗大学校グローバル日本研究院(大韓民国)
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- ベルリン国立図書館(ドイツ連邦共和国)
- パチカン図書館(パチカン市国)
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科(アメリカ合衆国)
- ハイデルベルク大学日本学科(ドイツ連邦共和国)
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部(ドイツ連邦共和国)
- 大英図書館理事会(イギリス)
- スミソニアン協会(フリーア美術館、アーサー・M・サックラー・ギャラリー) (アメリカ合衆国)

2 国際日本文学研究集会

本集会は日本文学研究の発展を目的とし、若手日本文学研究者の育成と、国内外の日本文学研究者の交流を深めるため、毎年秋に開催してきましたが、留学生の方にも参加して頂きやすいよう、日程を変更いたしました。

2021年5月8日(土)～9日(日)

第44回は、COVID-19感染拡大防止のため、オンラインにて開催します。

3 国際日本文学研究集会ワークショップ(文献資料ワークショップ)

国際日本文学研究集会の開催時期が、より多くの留学生の参加を企図して5月に変更されたため、2020年度は国際日本文学研究集会の代替として、国際日本文学研究集会ワークショップを3回開催し、日本古典籍を研究資源とした研究史・研究テーマ概説、古典籍の取り扱い方、国文研のデータベースの利活用等をめぐる実践的なガイダンスを行いました。2021年度についても継続して開催を予定しています。

日 程：第1回 2020年11月4日(水) 参加者36名
第2回 2020年11月26日(木) 参加者33名
第3回 2020年12月16日(水) 参加者40名
場 所：Zoomによるオンライン開催



4 日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

- 第6回 2018年9月6日 カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- 第7回 2019年2月26日 北京外国語大学北京日本学研究センター(中華人民共和国)
- 第8回 2019年3月1日 ハワイ大学マノア校・ホノルル美術館(アメリカ合衆国)
- 第9回 2021年2月27日 オンライン開催(北京外国語大学北京日本学研究センターとの共催)



第7回 日本古典籍セミナー



第8回 日本古典籍セミナー

5 海外研究者との交流(外国人研究員・外来研究員)

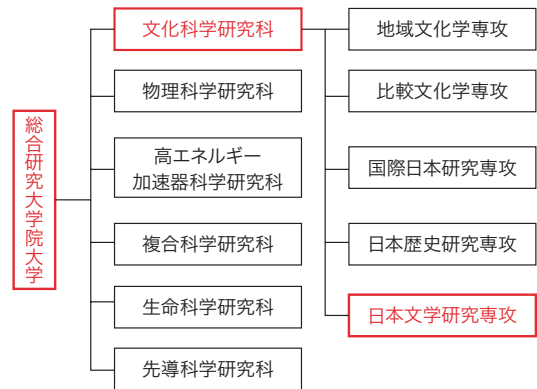
日本文学研究の国際化を促進するために、海外において第一線で活躍する日本文学およびその周辺領域の研究者を外来研究員等として受け入れ、学術資料の利用および人材交流の場として当館を提供しています。

大学院教育

■ 総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

原本資料調査に基づいた、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とする本専攻では、国文学研究資料館の文化資源を活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

日本文学を中心に分野に広く目配りした体系的なカリキュラムによる授業を実施するとともに、複数の教員による指導体制のもとに研究指導を行い、高度な専門知識を有した研究者及び研究業績によって社会に貢献できる人材を育成します。



● 日本文学研究専攻在学生数 2021年4月1日現在

| 入学定員 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|----|
| 3 | 1 | 2 | 5 | 8 |

● 過去5年間の年度別学位取得者数 ※論文博士を含む

| 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 4 | 1 | 2 | 0 | 2 |

● 修了生の進路

青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湘北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育 等

■ 日本文学研究専攻の特徴

● 複数指導体制

約20名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポートしています。学生の研究課題に応じた指導体制を築くため、学生1人につき主任指導教員1名、副指導教員2名を定め、多角的な観点からきめ細かい指導を行っています。

● 充実した教育研究環境

国文学研究資料館の膨大な資料を活用して研究を行うことができます。また、院生室、講義室、談話室など専攻の学生のための施設が充実しています。

● 経済的支援

国内外の現地調査、学会発表・聴講などの研究活動の旅費等の支援やリサーチ・アシスタント(RA)への積極的な雇用など、経済的な支援が充実しており、奨学金などと組み合わせることにより研究に専念することができます。

また、館内での資料複写が無料です(上限あり)。希望する図書の購入と図書室への配架も行っています。



■ 特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度からは特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

日本国内の国公立大学大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、日本史学及びこれらに関連する分野を専攻する者を「特別共同利用研究員」として受入れ、必要な研究指導を行っています。受入人員は5名程度とし、受入期間は、原則として各年4月から翌年3月までの1年間です。

| 年度 | 受入人数 |
|------|------|
| 2016 | 7人 |
| 2017 | 2人 |
| 2018 | 2人 |
| 2019 | 6人 |
| 2020 | 6人 |

公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館ではさまざまなデータベースを作成しています。

以下のデータベースを当館ウェブサイトの電子資料館

(<https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database>) で公開しています。

| | |
|------------------------------|--|
| 図書・雑誌所蔵目録 (OPAC) | 当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録。 |
| 国文学論文目録データベース | 明治21年から現在に至る国文学関係論文の目録。 |
| 新日本古典籍総合データベース | 「歴史的典籍NW事業」により構築している古典籍のデータベース ^{※1} 。 |
| 日本古典籍総合目録データベース | 日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録。 |
| 館蔵和古書目録データベース | 当館所蔵の和古書の目録。 |
| 古典選集本文データベース | 二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語、奈良絵本の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。 |
| 所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース | 古典籍資料を所蔵する機関と国文研が提携・協力し、国文研のweb上で古典籍画像の検索と閲覧を行えるように構築。現在は、広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクション、宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム画像、「津軽デジタル風土記」を公開。 |
| 日本古典資料調査記録データベース | 当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。 |
| 近代書誌・近代画像データベース | 明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。 |
| 収蔵歴史アーカイブズデータベース | 史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要及び目録を収録。 |
| コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース | 欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。 |
| 明治期出版広告データベース | 近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。 |
| 歴史人物画像データベース | 国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。また、伝記解題は当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに記載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収録されているかをデータベース化。 |
| 連歌・演能・雅楽データベース | 連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。 |
| 新奈良絵本データベース | 当館所蔵の奈良絵本 (19本) の原本画像を公開 (翻刻付)。 |
| 古事類苑データベース | 日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。 |
| 古典学統合データベース (地下家伝・芳賀人名辞典) | 日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人辞典』と『地下家伝』を搭載。 |
| 古筆切所収情報データベース | 『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。 |
| 日本文学国際共同研究データアーカイブ | 科研費基盤研究 (S) 「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究目録・論文画像・翻訳作品等のデータベースをアーカイブ化。 |
| 蔵書印データベース | 当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。 |
| アーカイブズ学文献データベース | アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て収録。 |
| 史料情報共有化データベース | 国内外で公開されている資料群 (アーカイブズ) 情報 (歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。 |
| 日本実業史博物館コレクションデータベース | 日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告・文書・書籍の資料情報と画像を公開。 |
| 館蔵社寺明細帳データベース | 当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。 |
| 伊豆菰山江川家文書データベース | 財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。 |
| 史料所在情報データベース | 国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報 (詳細版は利用登録制)。 |
| 増田太次郎広告コレクションデータベース | 増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。 |
| 近世語彙カードデータベース | 歌舞伎・浄瑠璃用語など約15万枚の近世語彙カードのデータベース。 |
| 在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ | 日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語 (一部日本語も有) で提供。 |
| 喃本大系本文データベース | 『喃本大系』 (東京堂出版刊) の全文検索。 |
| 日本古典文学大系本文データベース | 旧版『日本古典文学大系』 (岩波書店刊) の全文検索 (大学・短大以上の高等教育機関などに対して公開)。 |
| マリオ・マレガ資料データベース | マリオ・マレガ収集のキリシタン関係文書およびマレガ資料等の目録・画像を公開。 |

2021年4月1日現在

※1 新日本古典籍総合データベースについては、9頁をご覧ください。

※2 学術情報リポジトリについては、こちらをご覧ください。 <https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>

教員一覽 (2021年4月1日現在)

館長

| 氏名 | 研究内容 |
|------------------------|--------|
| 渡部 泰明 WATANABE Yasuaki | 和歌史の研究 |

研究部

| 氏名 | 職名 | 研究内容 |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| 入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi | 教授 副館長(企画調整担当) | 近世文学研究 |
| 神作 研一 KANSAKU Ken'ichi | 教授 副館長(研究担当) | 日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究 |
| 海野 圭介 UNNO Keisuke | 教授 (研究主幹) | 中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究 |
| 落合 博志 OCHIAI Hiroshi | 教授 (研究主幹) | 中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究 |
| 西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro | 教授 (研究主幹) | 民間所在資料の保存・利活用に関する研究 |
| 藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko | 教授 (研究主幹) | 日本近世・幕末維新期の政治文化の研究。書籍史料論の構築 |
| 山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki | 教授 (研究主幹) | 19世紀文学の研究 |
| 齋藤 真麻理 SAITO Maori | 教授 *日本文学研究専攻長 (総研大) | 中世文学の研究 |
| 渡辺 浩一 WATANABE Koichi | 教授 | 日本近世都市史、アーカイブズ学 |
| 相田 満 AIDA Mitsuru | 准教授 | 中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学 |
| 青木 睦 AOKI Mutsumi | 准教授 | 史料保存に関する研究 |
| 青田 寿美 AOTA Sumi | 准教授 | 日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究 |
| 太田 尚宏 OTA Naohiro | 准教授 | 近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究 |
| 加藤 聖文 KATO Kiyofumi | 准教授 | 近代以降の東アジアと日本との関係 |
| 木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke | 准教授 | 日本近世文学、特に小説史の研究 |
| ダヴァン ディディエ DAVIN Didier | 准教授 | 中世仏教と文学 |
| 多田 蔵人 TADA Kurahito | 准教授 | 日本近代文学における「引用」の研究 |
| 野本 忠司 NOMOTO Tadashi | 准教授 | 国文学研究における情報利用の高度化に関する研究 |
| 松田 訓典 MATSUDA Kuninori | 准教授 | 人文学におけるコンピューター利用に関する研究 |
| 山本 嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka | 准教授 | 日本漢文学、特に江戸・明治期の漢詩文 |
| 本多 啓介 HONDA Keisuke | 特任准教授 | 人文社会学を対象とした評価指標に関する研究 |

| 氏名 | 職名 | 研究内容 |
|-------------------------|------|-----------------------------------|
| 江戸 英雄 EDO Hideo | 助教 | 中古文学、特に物語文学の研究 |
| ノット ジェフリー KNOTT Jeffrey | 助教 | 中世における古典学・古典文学の受容史研究 |
| 糸 汐里 KUME Shiori | 特任助教 | 室町時代から江戸時代前期にかけての説話、物語草子、語り物芸能の研究 |
| 黄 昱 KOU iku | 特任助教 | 日本中世文学、和漢比較文学、特に日本と中国の説話に関する比較研究 |

■ 古典籍共同研究事業センター

| 氏名 | 職名 | 研究内容 |
|------------------------|-----------|----------------------------|
| 山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki | センター長(併任) | 19世紀文学の研究 |
| 北村 啓子 KITAMURA Keiko | 准教授 | 人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究 |
| 松田 訓典 MATSUDA Kuninori | 准教授(併任) | 人文学におけるコンピューター利用に関する研究 |
| 井黒 佳穂子 IGURO Kahoko | 特任助教 | 中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究 |

参考データ

職員・予算・施設(2021年度)

| 職員 | (単位：人) | 予算 | (単位：千円) | 施設 | (単位：m ²) |
|-------|--------|--------|-----------|-----------|----------------------|
| 館長 | 1 | 収入 | 1,287,869 | 建物面積 専有面積 | 13,002 |
| 教授 | 9 | 運営費交付金 | 1,283,484 | 上記の内 | |
| 准教授 | 12 | 自己収入 | 4,385 | 閲覧室 | 1,584 |
| 助教 | 2 | 支出 | 1,287,869 | 書庫・収蔵庫 | 2,416 |
| 特任准教授 | 1 | 教育研究経費 | 736,790 | 展示室 | 355 |
| 特任助教 | 1 | 一般管理費 | 551,079 | | |
| 事務系職員 | 42 | | | | |
| 合計 | 68 | | | | |

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)(2021年度)

| 研究種目 | 応募区分 | 研究代表者 | 研究課題名 | 研究期間 |
|-------------------------|------|----------|--|-----------|
| 基盤研究(A) | 一般 | 今西 祐一郎 | 日本古典籍における表情報学の発展的研究 | 2015～2021 |
| 基盤研究(A) | 一般 | 相田 満 | 日本における「生き物供養」「何でも供養」の連環的研究基盤の構築 | 2016～2021 |
| 基盤研究(A) | 一般 | 加藤 聖文 | アーカイブズによる「地域力」再生と持続的社会的基盤創成研究 | 2019～2022 |
| 基盤研究(B) | 一般 | 渡辺 浩一 | 自然と人間の相互関係史としての近世都市災害研究 | 2018～2022 |
| 基盤研究(B) | 一般 | 海野 圭介 | 金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究 | 2019～2022 |
| 基盤研究(B) | 一般 | 齋藤 真麻理 | 中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究 | 2020～2022 |
| 基盤研究(B) | 一般 | 藤實 久美子 | 維新政権期の木版刊行物に関する学際的研究およびオープンサイエンスの推進 | 2020～2023 |
| 基盤研究(C) | 一般 | 神作 研一 | 歌書を中心とした江戸時代の絵本と絵入本に関する基礎的研究 | 2019～2021 |
| 基盤研究(C) | 一般 | 武井 協三 | 『弘前藩庁日記』演劇上演記録の研究—享保期座敷芝居の解明— | 2019～2021 |
| 基盤研究(C) | 一般 | 山下 則子 | 鶴屋南北作歌舞伎における近世中期学芸の研究—異分野融合と社会還元を視野に— | 2020～2024 |
| 基盤研究(C) | 一般 | 木越 俊介 | 地誌・奇談にみる19世紀型(知)の再編と享受 | 2020～2023 |
| 基盤研究(C) | 一般 | 小林 健二 | 江戸時代前・中期における能狂言を題材とした絵画資料の調査と研究 | 2020～2023 |
| 基盤研究(C) | 一般 | ダヴァンディエ | 初期大燈派関連書籍の研究 | 2021～2023 |
| 挑戦的研究(開拓) | | 青田 寿美 | 蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発 | 2018～2021 |
| 挑戦的研究(開拓) | | 渡辺 浩一 | 社会転換期における地域アーカイブズ全国調査の検証と新たな方法の開拓 | 2020～2023 |
| 挑戦的研究(萌芽) | | 相田 満 | 『古事類苑』の共有と近代古典学の解析のための基礎的研究 | 2019～2021 |
| 若手研究 | | 山本 嘉孝 | 木下順庵の漢詩における盛唐詩受容の研究 | 2018～2021 |
| 若手研究 | | 館野 文昭 | 鶴鷺系歌学書の検討を軸とした秘伝的歌学書・歌学知の生成と展開に関する研究 | 2018～2021 |
| 若手研究 | | 黄 昱 | 説話に見られる日中動物観の比較研究—『太平広記』と『夷堅志』、『夷堅志和解』 | 2018～2021 |
| 若手研究 | | 多田 蔵人 | 日本近代文学における江戸文化の受容と表現に関する通史的研究 | 2019～2021 |
| 若手研究 | | 井黒 佳穂子 | 『玉水物語』にみる種と性の越境 | 2019～2021 |
| 若手研究 | | 桑 汐里 | 〈判官物〉の語り物の基礎的研究—幸若舞曲・説経・古浄瑠璃の影響関係の究明 | 2019～2022 |
| 若手研究 | | 幾浦 裕之 | 近世における阿仏尼像の享受と生成 | 2020～2021 |
| 若手研究 | | ノットジェフリー | 戦国期古典学史の基礎的研究—連歌師の源氏学を中心に— | 2021～2025 |
| 研究活動スタート支援 | | 高木 まどか | 中近世移行期の買売春に関する研究—医書および日記にみえるSTI(性感染症)から | 2020～2021 |
| 特別研究員奨励費 | | 上田 哲司 | アイヌ史構築のための基礎作業としてのアイヌ人物史的研究 蝦夷地一次幕領期を中心に | 2020～2022 |
| 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) | | 神作 研一 | 在米日本古典籍(リチャードレインコレクション)の調査研究と教育活用に関する研究 | 2018～2021 |
| 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) | | 加藤 聖文 | 日ソ戦争アーカイブズ構築に関する日露共同研究 | 2018～2021 |
| 研究成果公開促進費(学術図書) | | 岡 雅彦 | 江戸時代前期出版年表(万治元年～貞享五年) | 2020～2021 |
| 研究成果公開促進費(学術図書) | | 山本 嘉孝 | 詩文と経世—幕府儒臣の十八世紀— | 2021 |
| 研究成果公開促進費(データベース) | | 青田 寿美 | 明治前期出版広告データベース | 2017～2021 |
| 研究成果公開促進費(データベース) | | 神作 研一 | 日本古典籍総合目録 | 2020～2024 |
| 研究成果公開促進費(データベース) | | 山本 和明 | 新日本古典籍総合データベース | 2021 |

(2021年4月5日現在)



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

<https://www.nihu.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称:人文機構)は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

研究推進・情報発信事業

人文機構は、2016年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。

2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組めます。

総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

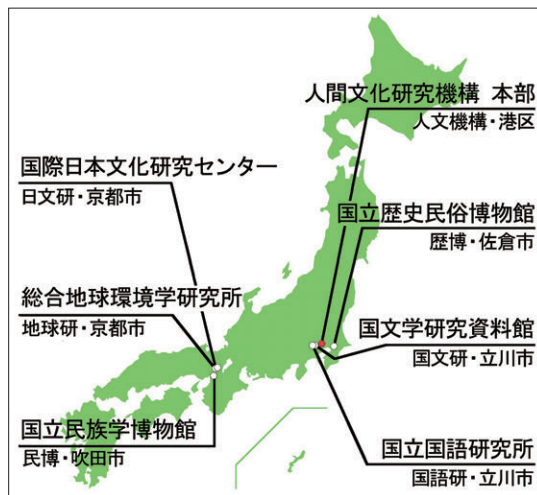
総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

| | |
|---------|---|
| 機関拠点型 | 総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築 |
| | 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築 |
| | 多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓 |
| | 大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出 |
| | アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発 |
| 広領域連携型 | 人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築 |
| | 日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築 |
| | アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開 |
| ネットワーク型 | 異分野融合による「総合書物学」の構築 |
| | 地域研究推進事業：北東アジア、現代中東、南アジア |
| | 日本関連在外資料調査研究・活用事業： ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ取集文書調査研究・保存・活用 北米における日本関連在外資料調査研究・活用 プロジェクト間連携による研究成果活用 |

4つの大学共同利用機関法人



人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地



総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

総合情報発信センターの情報・発信事業

| |
|--|
| 研究資源高度連携事業 nihuINT https://int.nihu.jp 人文機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース |
| 情報発信事業 リポジトリ https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース https://nrd.nihu.jp 人文機構所属の研究者情報を一元的に公開するデータベース運用 国際リンク集 https://guides2.nihu.jp/ 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine 人文機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン |
| 人文機構シンポジウム https://www.nihu.jp/ja/event/symposium 人文機構に蓄積された人間文化にかかわる総合的研究資料や成果を広く社会に伝えるためのシンポジウムを開催 |
| 社会連携事業 https://www.nihu.jp/ja/event 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進 ・味の素の文化センターと共催でシンポジウムを収録、配信「食のサステナビリティ～未来につなぐ食のあり方を考える～」 ・大手町アカデミアと連携し、特別講座を開催 ・人文知応援フォーラムとの共催事業として、人文知の普及・推進のために大会を開催 |

歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

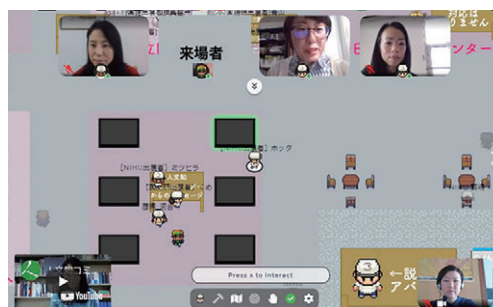
機構(主導機関: 歴博)、東北大学、神戸大学を中核として、全国各地の主に大学を中心に活動する「資料ネット」との連携構築を通じて、資料調査とデータ記録化、広域的相互支援体制の確立、資料保存研究等の歴史文化資料保全事業を推進します。さらに資料を活用した研究や教育プログラム開発、国内外に向けた情報発信を通じて、地域社会における歴史文化の継承と創成を目指します。

博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業

機構の6機関と大学等研究機関とが連携し、博物館および展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、多分野協業や社会との共創により研究を高度化して新領域創成を図る研究推進モデル「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化サイクル」を構築します。また本事業においては、大学等におけるカリキュラムの提案・実践を行うとともに、研究展示・映像・フォーラム等の企画・制作・運営を通じて「人文知コミュニケーター」を育成し、社会の課題と向き合う新たな知の構築を目指します。

人文知コミュニケーター

展示など多様な発信媒体、機会を活用して人間文化研究の成果をわかりやすく社会に伝えるとともに、研究に対する社会からの要望、反響を吸上げ、研究現場に還元するスキルを有した研究者として、「人文知コミュニケーター」の組織的育成事業を実施しています。研究者と社会を「つなぐ人」として、社会連携や共創を推進し、人文学の振興、発展に貢献します。



大学共同利用機関シンポジウム2020において、来場者と交流する人文知コミュニケーター

社会連携

地域社会や産業界などと連携し、人間文化研究成果の社会還元を推進しています。

- 大手町アカデミア(一般社団法人 読売調査研究機構)において、人文機構の研究者を講師とする特別講座を開催:
オンライン無料特別講座 連続講座: 持続可能な「自然・社会・人間」の関係性を考察する(1)「近世江戸は災害都市だった! - 連続複合災害について考える -」(2020年12月16日開催)
- 公益財団法人味の素の文化センターとの共催シンポジウムを開催:
「食のサステナビリティ~未来につなぐ食のあり方を考える~」(2020年11月24日オンライン公開)
- 人文知応援フォーラム(<http://jinbunchi.jp/>) との共催事業として、人文知の普及・推進のために大会を開催:
第1回人文知応援大会「コロナという災厄に立ち向かう人文知」(2021年2月27日開催)



公益財団法人味の素の文化センターとの共催シンポジウム
(写真: 人間文化研究機構公式YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/c/NihuJP>)

大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻(博士後期課程)を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。

総研大文化科学研究科の各専攻

- 地域文化学専攻(民博)
- 比較文化学専攻(民博)
- 国際日本研究専攻(日文研)
- 日本歴史研究専攻(歴博)
- 日本文学研究専攻(国文研)



交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分

※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

FAX: 042-526-8604

<https://www.nijl.ac.jp/>

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan

TEL: +81-50-5533-2900

FAX: +81-42-526-8604